

外 房：縦約30cm, 直径約24cm

内 層：3層

	最上層	第2層	
層 径	126 cm	125×120	80×76
房 数	428	398	209
房 径*	4 mm	6 mm	5.6 mm

* 房径は六角形の平行面の計測値。

この房径から推定すると越年雌は第2層に生じると考えられる。

その後、本種の分布について三重大松浦誠氏に伺った所、発表はないが九州・四国の高地にも分布しているとのことで、兵庫県が分布の西限ではないことを知った。このような比較的大型のハチでも分布状態がよくわからないとは、誠に残念である。

終りに、情報を提供された池田和生氏並びに分布の御教示賜った松浦誠氏に厚く御礼申上げる。

ハチ類の方言

奥谷 禎一

近年は図鑑などが普及し方言を用いることが少なくなったが、地方誌の記録として方言も必要ではないかと思うので、千種町西河内の池田和生氏からよせられた方言を記録しておく。方言である以上正確にどの種を指しているかはっきりしない点もあるが、ことわりのない限り千種町あたりの方言である。

おおぐろ：スズメバチ又はヒメスズメバチ

こぐろ：ヒメスズメ又はコガタノスズメバチ

すずめにか：スズメバチ

以上の3種の総称は“くろにか”

あかにか：キイロスズメバチ

あわい：クロスズメバチ

“つちばち” “ささばち” と称する人もある。

おおあしだれ及びあしだれ：セグロアシナガバチ又はキイロアシナガバチ、おおあしだれは後者を指すらしい。

まめのこ：キボシアシナガバチとコアシナガバチ

ささばち：ホソアシナガバチとヒメホソアシナガバチ

じばち：ジガバチ等単独で地中に営巣するハチ類

じみつ：ニホンバチ（在来種ミツバチ）

どんごろ：ケブカハナバチとクマバチ

つちばち：マメコバチやトックリバチなど泥を運ぶハチ類

おみきすず：スズメバチ類（くろにか、あかにか）の越冬雌がつくる初期の徳利状の巣

にかのす：上記のものが球形になった巣

あつさぎ：フタモンアシナガバチ（一宮町）

あるいはアシナガバチ類全体のことも知れない。

なお、千種町あたりでは、スズメバチ類の幼虫を食用にする。また、“あしだれ”は足垂れ、“あつさぎ”は足下の意味らしい。

終りに、これらの方目を御紹介頂いた池田和生氏に深く感謝の意を表する。

神戸市山田町の蛾（続報Ⅱ）

松 本 健 嗣

採品の分類整理がまだ出来ないので、今回も相変らず陳腐な手法であるが若干の種を披露させて頂く。

1. ヒトスジオオメイガ *Schoenobius lineatus* Butler

1979年7月30日 1 ex. 北区山田町字藍那

1983年7月8日 3 exs. 同 上

三化メイ虫イッテンオオメイガと同属であるが、藍那では7月に水田上でよく見かける。局地的なものだと言う。

2. サビイロナミシヤク *Pseudocollix hyperythra* Hampson

1983年5月23日 1 ♀ 字藍那

暖国の照葉樹林のものらしい。

3. イチゴキリガ *Orbona fragariae pallidior* Warren

1983年4月12日 1 ♂ 字藍那